

2011年4月28日

関係各位

野村ホールディングス株式会社  
コード番号 8604  
東証・大証・名証第一部

## 野村ホールディングス、2011年3月期の連結決算を発表

野村ホールディングス株式会社(執行役社長兼 CEO:渡部賢一)は、本日、2011年3月期(以下「当期」)の通期ならびに第4四半期(2011年1-3月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当期の収益合計(金融費用控除後)は11,307億円、税前利益は933億円、同社に帰属する当期純利益は287億円であった。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は2,994億円、税前利益は374億円、同社に帰属する当四半期純利益は119億円となった。

同社の執行役社長兼 CEO の渡部賢一は、以下のとおりコメントした。

「第4四半期は、前四半期比で収益、税前利益とも増加し、8四半期連続の黒字となった。営業部門は、お客様のニーズに対して的確に応えた結果、厳しい市場環境下で前四半期と同水準の収益を計上した。アセット・マネジメント部門は運用資産残高が拡大して増収増益となった。ホールセール部門では、グローバル・マーケットの収益が堅調に推移したのみならず、震災直後もマーケット・メイキングを継続し、投資家に対する流動性供給に大きく貢献した。インベストメント・バンキングでも日本での大型 PO 案件に加え、プライベート・エクイティ関連プロダクトで収益を押し上げた。

通期では、欧州ソブリン危機や東日本大震災など市場環境の不安定な時期もあったが、四半期ごとに収益と税前利益が増加し、全部門で税前黒字を計上した。米国やアジアにおいて先行投資の収益化が進み、海外でのビジネス基盤が確立してきている。海外に積極投資する一方で人件費は前年比で減少しており、先行投資とコスト管理も両立させている。来期も引き続き、強固な財務基盤のもと顧客中心主義を堅持し、ワールドクラスの独立系投資銀行を目指して努力を続ける。」

2011年3月末日を基準日とする配当金(支払開始日:2011年6月3日)については、1株当たり4円とする。これにより、年間の配当額は1株当たり8円となる。

**2011年3月期通期決算のポイント**

2011年3月期通期決算のハイライトは以下のとおり。

	2011年3月期 第4四半期	前四半期比	前年同期比	2011年3月期 通期	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	2,994 億円	+1%	+8%	11,307 億円	△2%
税前利益	374 億円	+35%	+31%	933 億円	△11%
純利益	119 億円	△11%	△35%	287 億円	△58%

- 通期の収益は 11,307 億円(前年比:2%減)、税前利益は 933 億円(前年比:11%減)、当期純利益は 287 億円(前年比:58%減)。
- 四半期ごとに収益／税前利益が増加し、全部門で税前黒字を計上した。
- 営業部門は、コンサルティング営業に注力した結果、通期にわたり全社の利益を牽引した。
- アセット・マネジメント部門は、継続的な資金流入等により運用資産残高が増加、運用パフォーマンスも良好であった。
- ホールセール部門の設立によりビジネス間の連携が強化された。グローバル・マーケットは先行投資先の米国、アジアが収益に貢献し始めた。インベストメント・バンキングでは収益の多様化が進み、プロダクト・ミックスが改善した。
- 2011年3月末における速報値で、自己資本比率は 22.2%、Tier 1 比率は 16.4%、Tier 1 コモン比率は 16.4%、2011年3月末現在の B/S の資産合計は 36.7 兆円、株主資本は 2.1 兆円、グロスレバレッジは 17.6 倍、調整後レバレッジは 10.3 倍である。

**2011年3月期第4四半期の各部門の状況**

- 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は 962 億円、税前利益は 177 億円であった。

厳しい環境ながら顧客との対話を絶やさず、顧客のニーズに的確に応えるコンサルティング営業によって、収益は前四半期とほぼ同水準であった。総募集買付額は前四半期比で 10% 増加、中でも株式は募集買付額が直近 8 四半期で最高水準となった。

	2011 年 3 月期 第 4 四半期 (10 億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	96.2	△1%	+1%
税前利益	17.7	△23%	△26%

## ● アセット・マネジメント部門

収益合計(金融費用控除後)は 219 億円、税前利益は 79 億円であった。公募株式投信を中心に新規の資金が流入し、運用資産残高は 24.7 兆円まで増加した。野村アセットマネジメントの公募投信のシェアは 21.8%と前四半期比で拡大し、引き続き高い水準でのトップシェアを維持している。投資顧問ビジネスでも、日本株、アジア株、グローバル債券を中心に、国内年金や欧州、中東、アジアの政府系機関からの受託が増加した。

	2011 年 3 月期 第 4 四半期 (10 億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	21.9	+2%	+22%
税前利益	7.9	+14%	+62%

## ● ホールセール部門

収益合計(金融費用控除後)は 1,863 億円、税前利益は 294 億円となった。

インベストメント・バンキングが大幅増収であったことに加えてコスト削減が功奏し、増収増益となった。

➤ グローバル・マーケットは、フィクスト・インカムでは期末にかけてボラティリティが上昇し流動性が急低下したが、そのような環境化でも OTC デリバティブの取引数は増加、米国での

顧客基盤が順調に拡大し、顧客フローからの収益も伸びた。エクイティは、主要市場の出来高が低迷する中、前四半期に続いて顧客ビジネスが拡大した。震災後のマーケット・ボリュウムやボラティリティの急激な上昇局面においても、顧客ニーズに対応して流動性を供給し続けた結果、従来より高水準のマーケット・シェアを獲得した。

- インベストメント・バンキングは、国内の大型 ECM ビジネスに加え、アジア、欧州でのビジネスも伸びた。国内ではりそなホールディングスなどの大型 ECM 案件を獲得し、リーグテーブルにおいて圧倒的なリーディング・シェアを維持している。海外でも大型案件を相次いで獲得した。また、上半期に獲得した大型クロスボーダーM&Aの案件完了による収入やプライベート・エクイティ・ビジネスが収益を押し上げた。プロダクトの充実とともにカバレッジ地域の拡大によって収益源が多様化・拡大した。

	2011年3月期 第4四半期 (10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	186.3	+8%	+11%
税前利益	29.4	+173%	△16%

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(4月28日)午後5時より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<http://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信いたします。

本資料は、米国会計基準による2011年3月期ならびに第4四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2011年4月28日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。